

土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる技術等の視察を受け入れています

令和2年10月28日

今年度上半期は、新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急事態宣言が全国に出されたため、一定期間視察の受け入れを見合わせておりました。また、春先から夏にかけて、コロナ禍のため視察要望も例年より低調な状況となっていました。そのような中、8月25日に、「土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる手法を開発（特許取得）」のプレスリリースを行ったところ、それ以降、視察要望が再び増加傾向となり、九州育種場ではコロナ禍の状況を踏まえ、マスクの着用及び入場時に体温測定等の感染リスク軽減措置を実施しながら視察を受け入れております。

今月は、林野庁、九州森林管理局、森林組合、製材事業協同組合の視察が行われ、来月も県庁、市役所等の視察が予定されているところです。

主な視察希望内容として、①土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる技術、②特定母樹、エリートツリー等となっています。

このようなことから、視察者に分かりやすく研究成果をお伝えするために「土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる技術（エアざし）を開発」のリーフレットを作成したところであり、当場のホームページにも掲載しています。

視察参加者から、①については「散水の頻度はどのくらいか」、「出荷までにどのくらいかかるのか」、「年中、安定的に生産可能なのか」、②については「ヒノキ特定母樹品種の開発状況はどのようになっているのか」、「認定特定増殖事業者等からの配布要望に対応出来ない品種があるのか」などといった質問があり、優良な苗木の生産・調達に向けて積極的に取り組もうとしている視察参加者の意欲が伝わってきました。

今後とも、視察等を積極的に受け入れることにより、当場の研究成果をPRするとともに優良種苗の更なる普及に貢献していきたいと考えています。



エアざしの視察の様子



特定母樹等の視察の様子

（九州育種場）